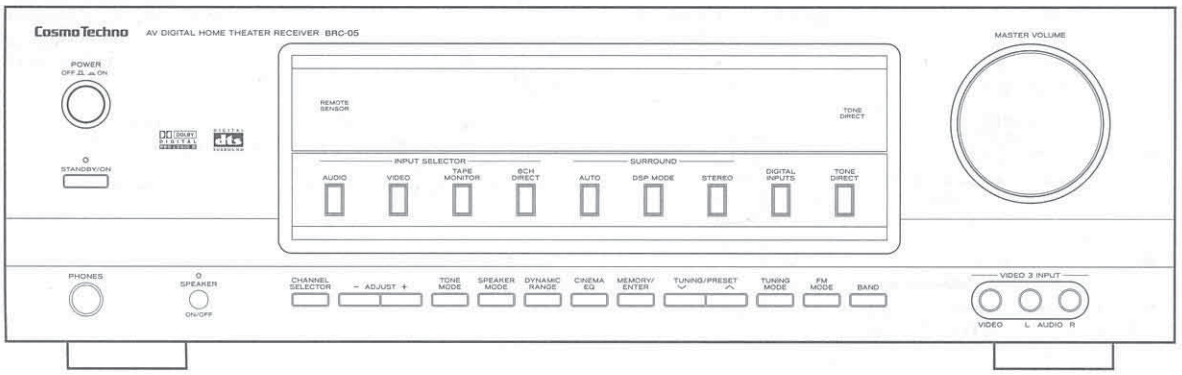
BRC-05

AV DIGITAL HOME THEATER RECEIVER

OWNER'S MANUAL



安全上の留意項目

ご使用前に、この「安全上の留意項目」をよくお読みになり、正しくお使いください。

絵表示について　この「安全上の留意項目」は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠ 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。
⚠ 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示します。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

△記号は行為を促す内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は指をはさまれないように注意）が描かれています。

⚠ 警告

電源プラグをコンセントから抜け

●万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災、感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。

●万一内部に水などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

●万一内部に異物などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

●電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

水場での使用禁止

●風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

●乾電池は、充電しないでください。電池の破損、液もれにより、火災・感電の原因となります。

使用禁止

●雷が鳴りだしたら、アンテナ線や電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

●表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。

●この機器を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災の原因となります。

●万一、この機器を落としたり、キャビネットを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

通風孔のある機器のみ

●この機器の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。この機器には、内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。次のような使い方はしないでください。

・この機器をあお向けや横倒し、逆さまにする。
・この機器を押し入れ、専用のラック以外の本箱など風通しの悪いところに押し込む。
・テーブルクロスをかけたり、じゅうたん、布団の上において使用する。

●この機器を設置する場合は、壁から10cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から2cm以上、背面から5cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり火災の原因となります。

●電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて火災・感電の原因となります。

●この機器の通風孔、カセットテープの挿入口、ディスク挿入口などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

●この機器の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合火災・感電の原因となります。

分解禁止

●この機器の裏ぶた、キャビネット、カバーは絶対外さないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。

●この機器は改造しないでください。火災・感電の原因となります。

●電源コードを傷つけたり、、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加工したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。

⚠ 注意

●調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

●ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

●電源コード、スピーカーコードを熱器具に近づけないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

●窓を閉めきった自動車の中や直射日光が当たる場所など異常に湿度が高くなる場所に放置しないでください。キャビネットや部品に悪い影響を与え、火災・感電の原因となることがあります。

●電源を入れる前には音量（ボリューム）を最小にしてください。突然大きな音がでて聴力障害などの原因となることがあります。

●万一の事故防止のため、この機器を電源コンセントの近くに置き、すぐに電源コンセントからプラグを抜けるようにしてください。

●旅行などで長期間、この機器をご使用にならないときは安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

●お手入れ際は安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

●5年に一度くらいは機器内部の掃除を販売店などにご相談ください。機器の内部にほこりがたまったまま、長時間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については販売店にご相談ください。

●アンテナ工事には、技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。

※送配電線から離れた場所に設置してください。アンテナが倒れた場合、感電の原因となることがあります。

●濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

●電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。

●移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、アンテナ線、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

●長時間音が歪んだ状態で使わないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

●ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げ過ぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

FMアンテナの接続

ご注意：

・接続する前に全ての機器の電源を切っておいてください。

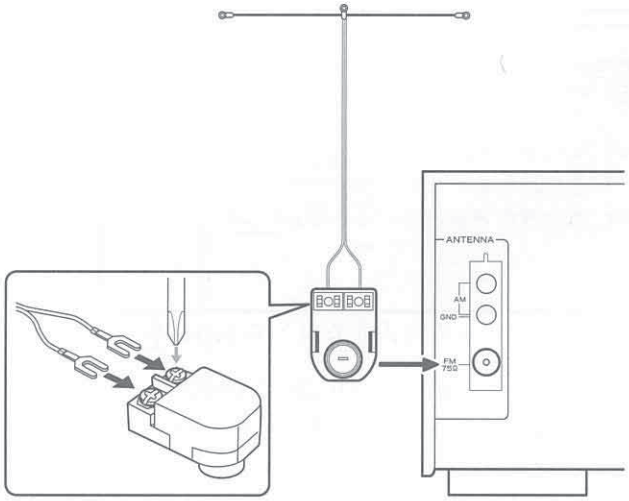
・本機と接続する各種機器の取扱説明書をよくご覧になってご使用ください。

・各種プラグはしっかりと差し込んで下さい。ハム音やノイズを避ける為に電源コードやスピーカーコードは他のケーブルと束ねないでください。

FM用室内アンテナ

T字型にアンテナを伸ばし、図示されているようにアンテナカプラーに２つのワイヤーを接続してください。

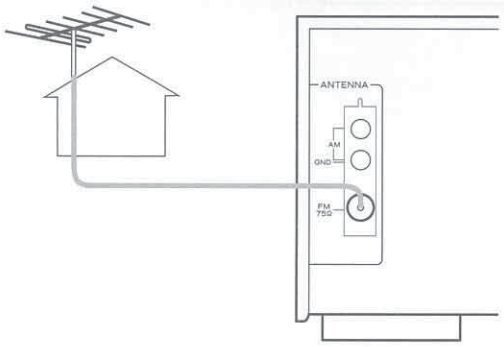
接続ができたらカプラーを本機背面の"FM 75Ω"のソケットに差し込みます。Tの字にアンテナを伸ばし、お気に入りのラジオ局を受信してください。アンテナを窓枠や壁に受信状態が良好になるような位置にピンなどで固定してください。



FM外部アンテナ

FM受信電波が弱い地域の場合、75Ωのアンバランスタイプの外部FMアンテナの使用をお薦めします。通常、３素子のアンテナで十分ですが、特に受信状況が悪い場合は５素子以上が必要となる場合があります。

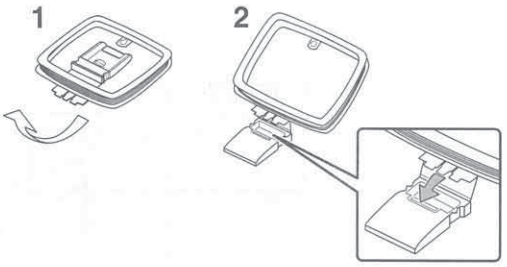
・外部アンテナを使用する場合はFM室内アンテナを外してください。



AMアンテナの接続

AM用室内ループアンテナ

アンテナを立てて使用する場合は土台部分のツメに差し込むようにしてください。



接続方法：

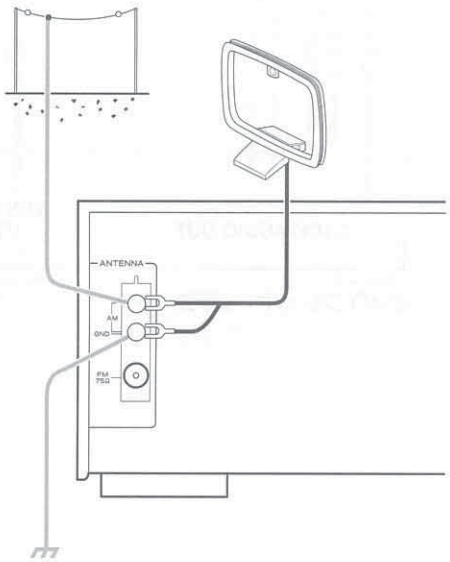
AMターミナルのキャップを左回しで緩め、ループアンテナの線をはさみこみキャップを締めます。

コードを引っ張り、正しく締まっているか確認してください。

アンテナは本棚の上に置いたり、窓枠に吊るすことができますが、最高の受信状態が得られる方向に向けてください。電源コードやスピーカーコード、接続コード、テレビやパソコンから出来るだけアンテナが離れるようにしてください。

・AMループアンテナを使用して十分に受信ができないようであれば(局から離れていたり、コンクリートのビル内である等)、外部AMアンテナを使用する必要があります。

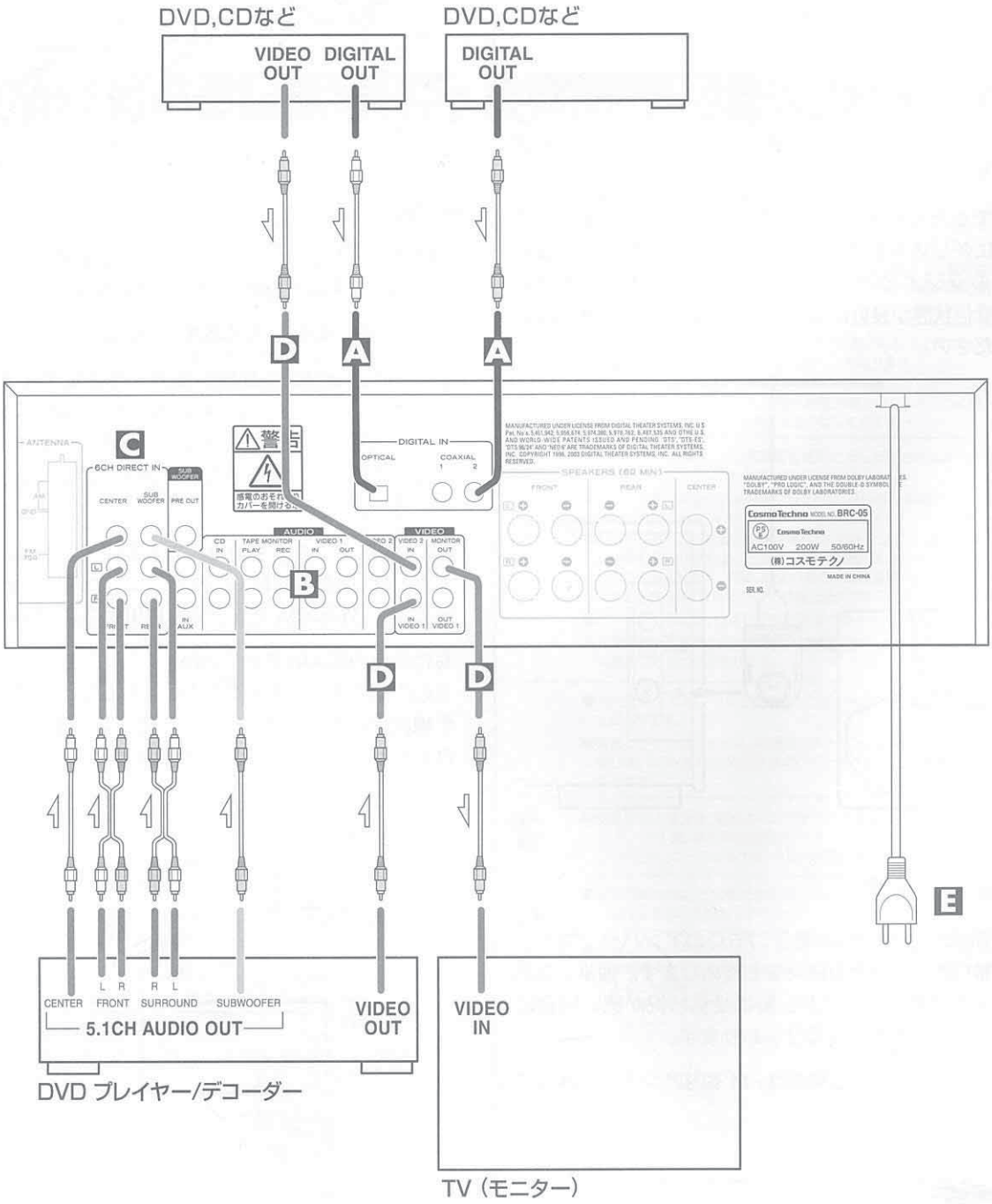
高性能の商業AMアンテナか、もしくは5m長の絶縁コードの片側を裂き、ターミナルに接続してください。アンテナ線は窓の内部か外部に繋ぐ必要があります。受信状態を良くする為にはGNDターミナルを地中に埋めてください。



注意：

外部AMアンテナを使用しても、AMループアンテナは外さないで下さい。

接 続 図


DVD,CDなど
VIDEO OUT
DIGITAL OUT
DVD,CDなど
DIGITAL OUT
D
A
A
C
6CH DIRECT IN
CENTER
SUB WOOFER
PRE OUT
DIGITAL IN
OPTICAL
COAXIAL
AUDIO
VIDEO
B
D
D
E
CENTER
FRONT
SURROUND
SUBWOOFER
5.1CH AUDIO OUT
VIDEO OUT
VIDEO IN
DVD プレイヤー/デコーダー
TV（モニター）

接 続 図

警告：

・接続する前に全ての機器の電源を切っておいてください。

・本機と接続する各種機器の取扱説明書をよくご覧になってご使用ください。

・各種プラグはしっかりと差し込んでください。ハム音やノイズを避ける為にパワーコードやスピーカーコードは他のケーブルと束ねないでください。

A DIGITAL 音声入力端子

デジタル音声信号の入力に使用します。これらのデジタル入力端子とDVDやCDプレイヤー等の適切なデジタル出力端子に接続します。接続するRCA同軸ケーブルや光デジタルケーブルは品質の良いものをご使用ください。

・光デジタルケーブルをジャックに差し込む時、カバーを開け、カチッと音がするまで奥に差し込みます。力任せに接続しようとすると、カバーやケーブル、本機そのものを傷つける場合がありますのでご注意ください。

B アナログ音声入出力ジャック

2chの音声信号がこれらのジャックから入出力されます。市販のRCAケーブルで外部機器と接続してください。

接続は以下の通りになるようにしてください：

白プラグ→白ジャック（L：左チャンネル）
赤プラグ→赤ジャック（R：右チャンネル）

C 6CH ダイレクト入力ジャック

お手持ちのDVDプレイヤーもしくはデコーダーに６チャンネルのアナログ音声出力があればRCAケーブルで接続することができます。

D ビデオ入出力ジャック

ビデオ用のRCAケーブルで外部機器を接続します。

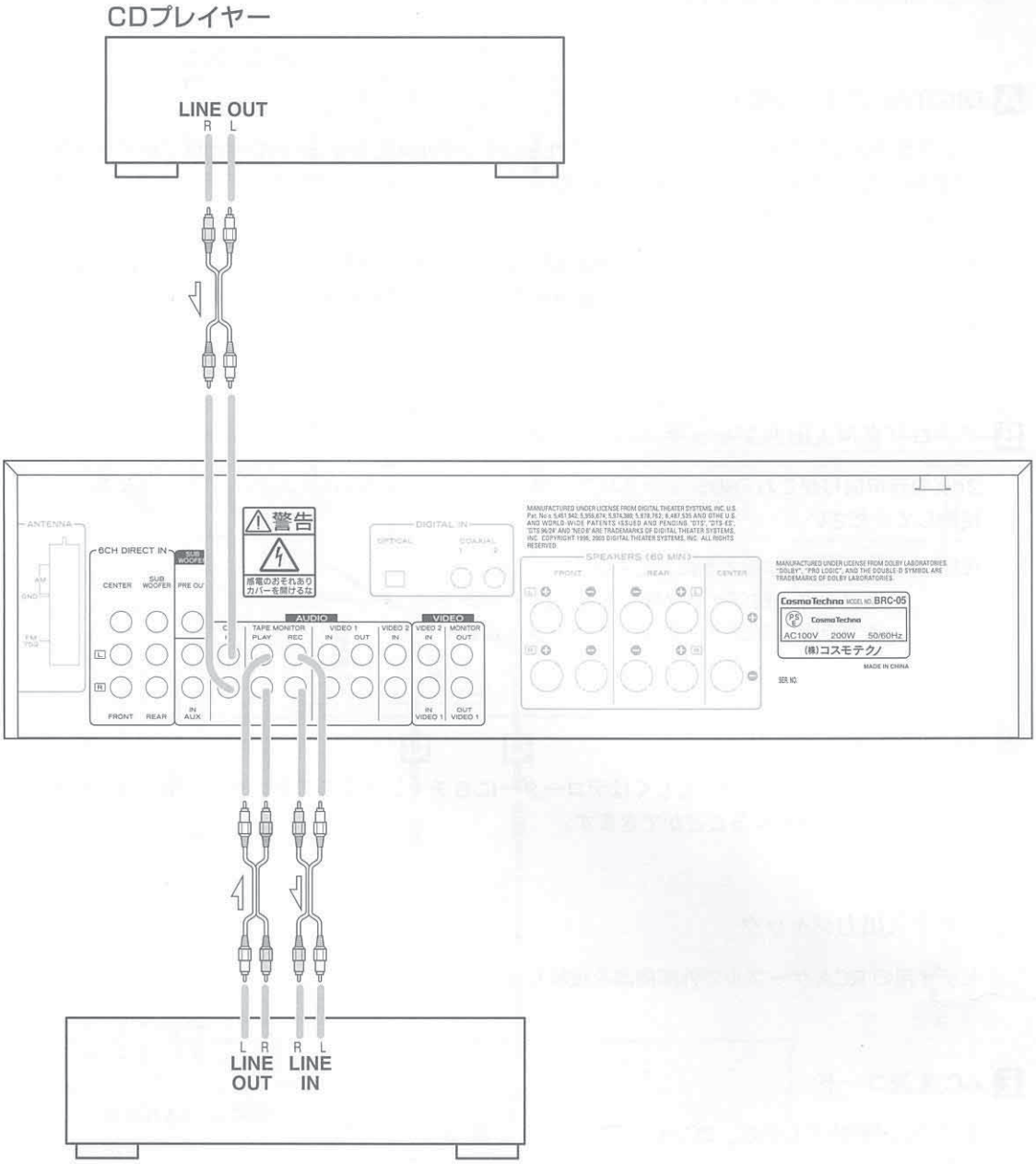
E AC 電源コード

全ての接続が終了したら、コンセントにプラグを差し込んでください。

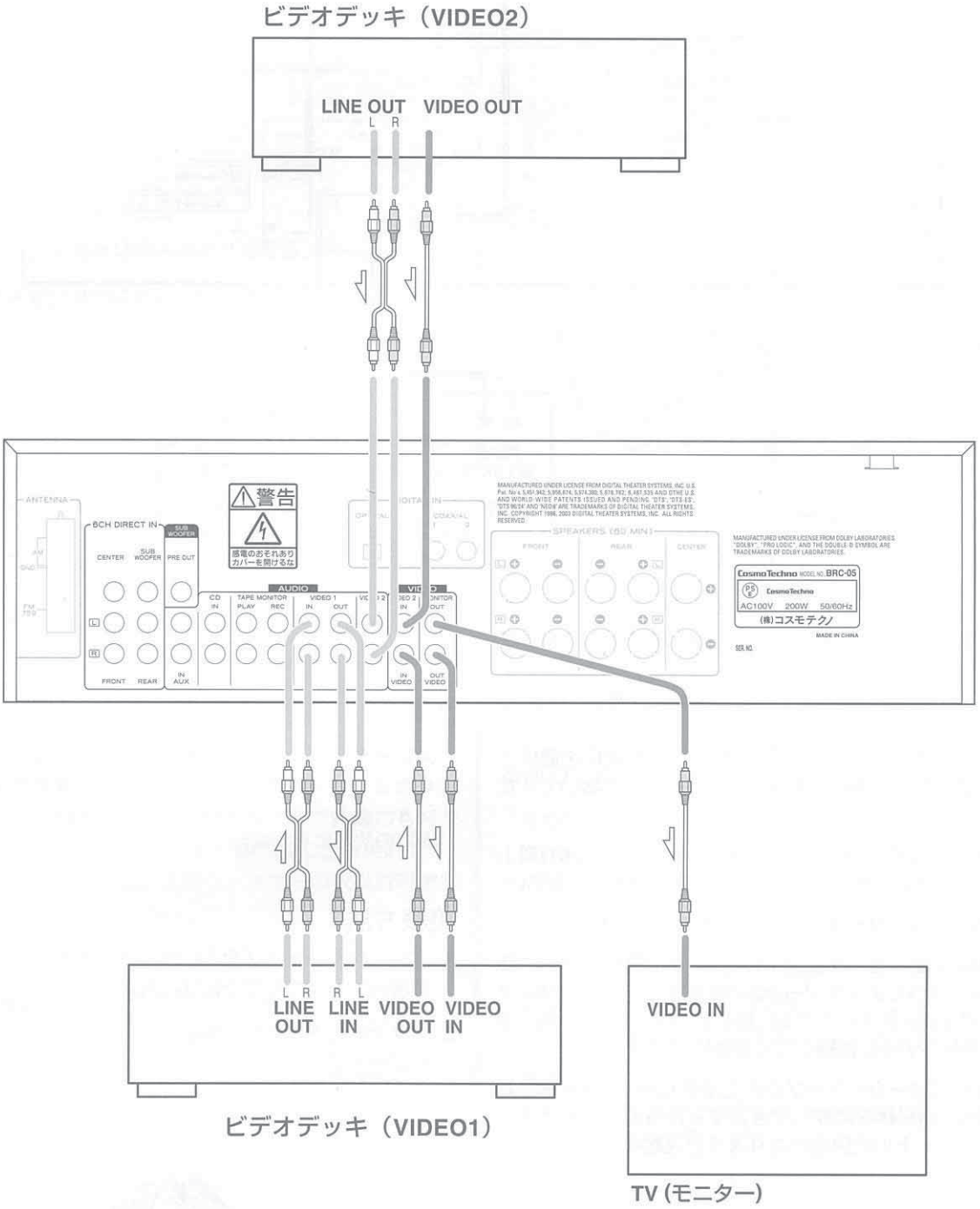
本機をしばらく使用しない時はコンセントからプラグを抜いておいて下さい。14日以上、プラグが抜かれた状態が続きますとチューナーのメモリープリセットが消えてしまいます。

コンセントの電圧が100Vであることをご確認ください。

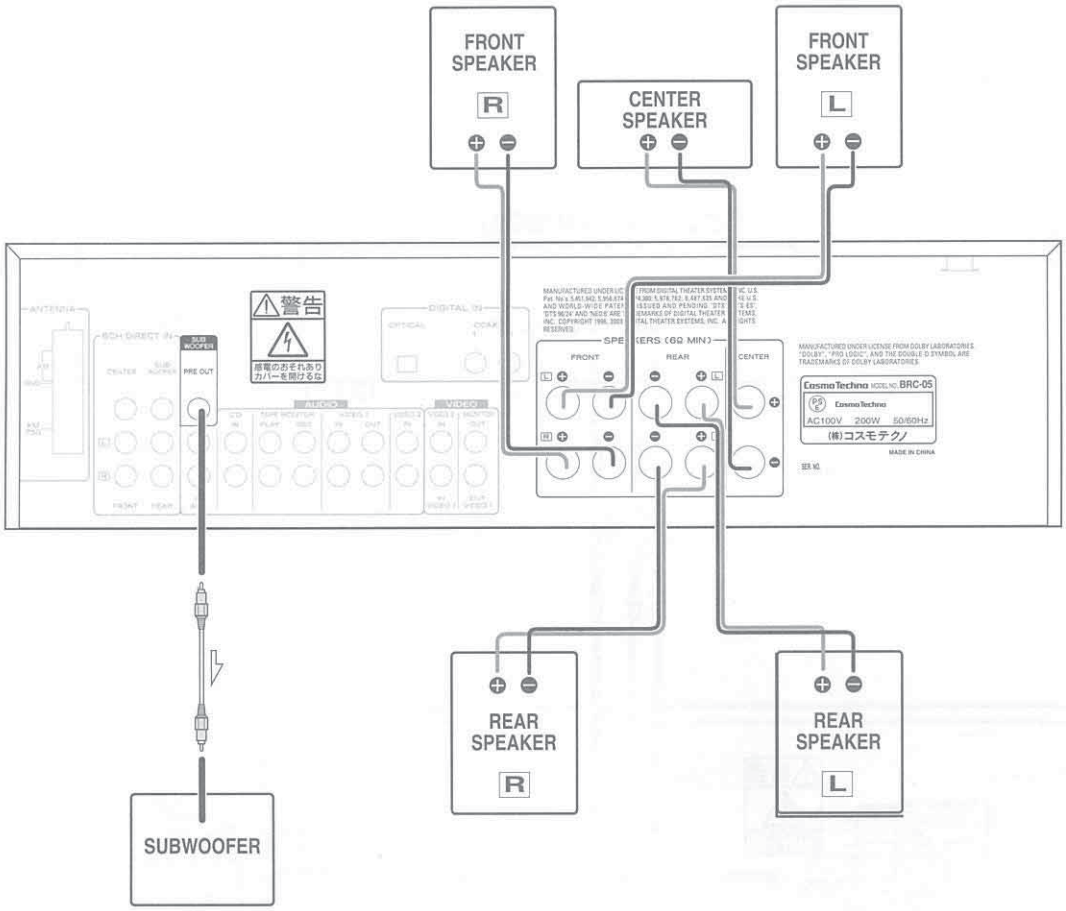
外部オーディオ機器との接続例



外部ビデオ機器との接続例



スピーカーとの接続



注意：

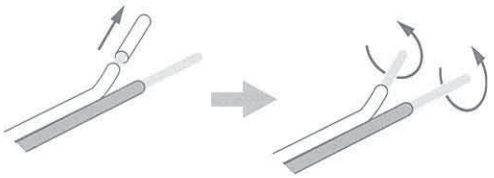
突然のハイレベル信号によるスピーカーの破損を避ける為、スピーカーと接続をする前に電源を切っておいてください。

スピーカーのインピーダンスを確認してください。6Ω以上のインピーダンスをもったスピーカーを接続してください。

黒のスピーカーターミナルはマイナス(−)です。

一般的にスピーカーケーブルの⊕側には⊖側のケーブルと見分けがつくようなマークがついています。このマークのついた側を⊕ターミナルに接続し、マークのない側を黒の⊖ターミナルに接続してください。

接続前にスピーカーケーブルの先端約10mmの絶縁体を剥がします(絶縁体を剥がしすぎますと片方のターミナルに触れ、ショートの危険性があります。)先端をよくよじってください。



注意：

スピーカーケーブルの両極は絶対に触れないようにしてください。電気ショートが起こる危険性があります。ショートしたケーブルは火災を引き起こす恐れもあり、機器の故障にもつながります。

接続方法：

1. ターミナルキャップを左に回しゆるめます。このキャップは緩めつづけても完全には取れません。
2. ワイヤーをターミナルの中に差し入れ、キャップを右回りに締めます。

ターミナルに入るのはワイヤの部分だけで、絶縁体は外にでていることを確認してください。

3. ケーブルを軽く引っ張り、ワイヤーがしっかりと固定されていることを確認してください。

スピーカーの位置

スピーカーを置く位置はそのサイズと部屋の状態により変わってきます。実際にソースを聴いた時に、どこに置けば最高の音場効果を得られるかを決めます。

・理想的には、全てのスピーカーをリスニング位置を中心とした円周上に置きます。

・“L”に接続されたスピーカーをリスニングポイントから見て左に、“R”に接続されたスピーカーを右に置きます。

フロントスピーカー

ブラウン管テレビの近くに置く場合は防磁がほどこされたスピーカーを使用します。

フロントスピーカーはリスニング位置の正面に置きます。

フロントスピーカーは全てのサラウンドモードに対応しています。

センタースピーカー

ブラウン管の近くに置くのであれば、防磁されたスピーカーを使用して下さい。左右フロントスピーカーの中心もしくはTVモニターの下に置きます。

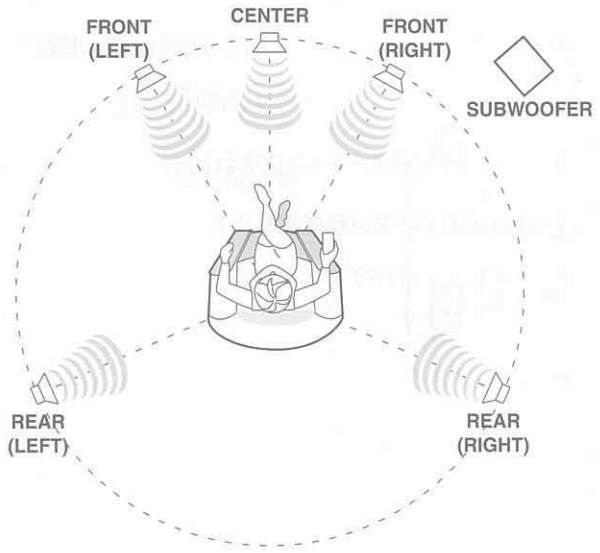
左・右リア（サラウンド）スピーカー

リスナーの耳の位置より上で、リスニング位置の左右(若干後寄り)に設置します。

サブウーファー

主にLFE(超低音の効果音)を再生します。

パワードサブウーファーと呼ばれるアンプ内蔵のものを使用してください。床や部屋の隅に置くと効果的です。サブウーファーを置く位置はウーファーの取扱説明書を参照してください。



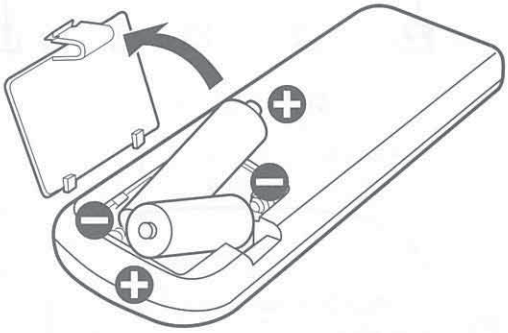
リモートコントロール

リモコンを使用すれば離れた位置からの操作が可能です。リモコンで操作する場合、リモコンをフロントパネルのセンサーに向けてください。

・適切な位置(5m以内)で操作した場合でも、本機とリモコンの間に障害物があると操作ができない場合があります。

・赤外線を発する他の製品の近くで操作をしたり、本機の近くで赤外線を使用したリモコンが使用されると本機で誤動作が起こったり、他の機器が誤動作を起こしたりする場合があります。

電池の交換



1. 電池カバーを外します。
2. アルカリ単三電池を2つ入れます。⊕⊖を間違わないようにしてください。
3. カバーを閉じます。

電池の交換

リモコンと本機の距離が離れている時に反応が遅い等、操作がききづらい場合は電池切れの場合があります。新しい電池に替えてください。

電池に関しての諸注意

・電池の極性を合わせてください。

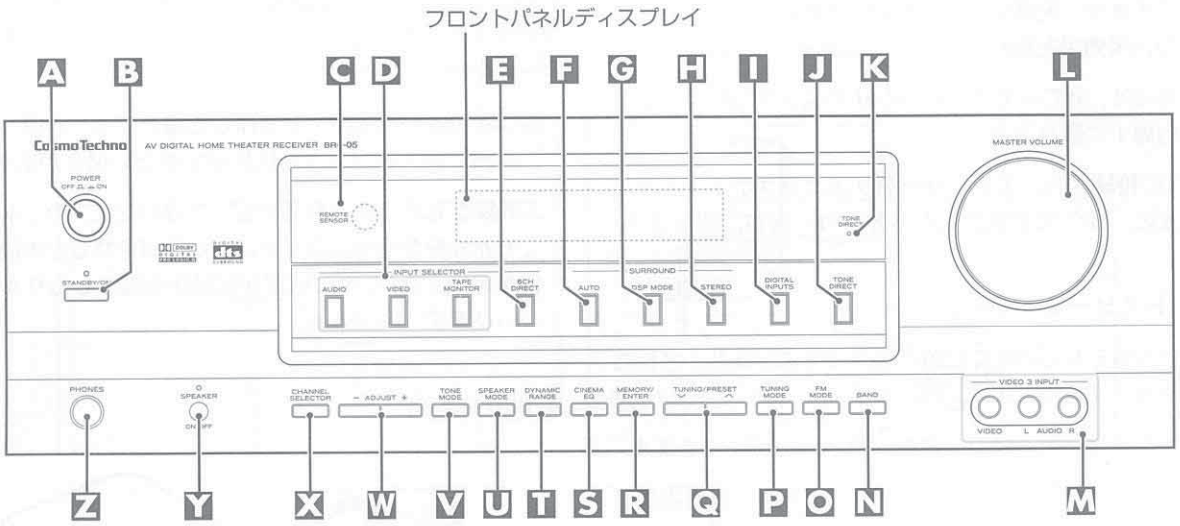
・同じ種類の電池を使用してください。異なる種類の電池を混ぜないで下さい。

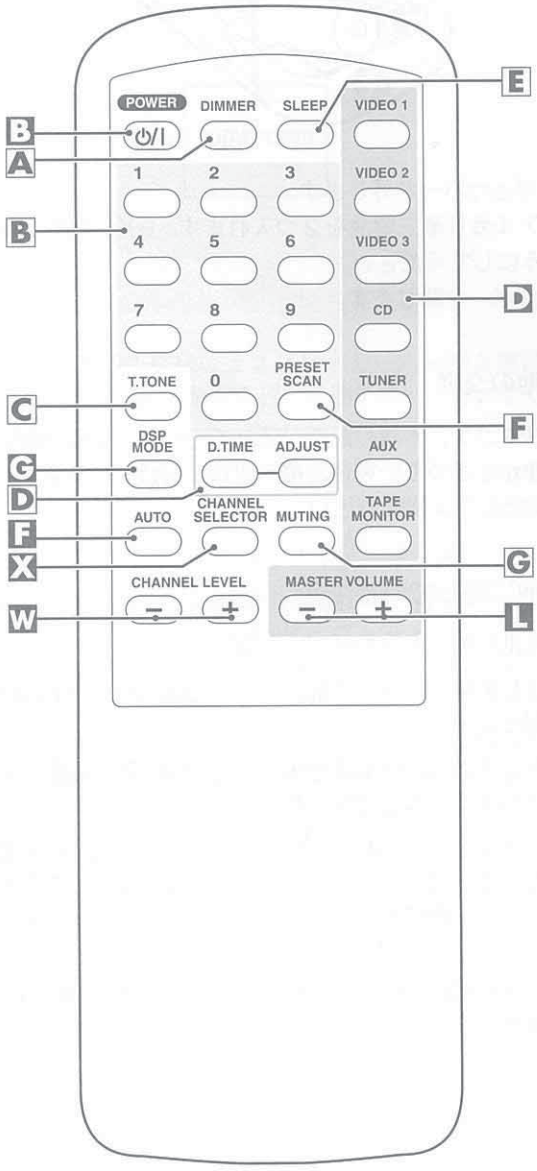
・充電式電池の使用は可能です。使用の際は電池の取扱説明書の注意事項をご覧ください。

・リモコンを長期間(一ヶ月以上)使用しない場合液漏れを防ぐ為に電池を抜いておいてください。液漏れした場合、電池入れの中をきれいに拭き取り、新しい電池に交換してください。

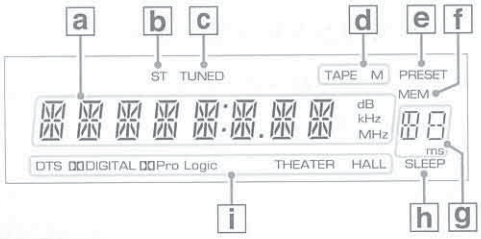
・電池を熱したり分解したりしないで下さい。使い終わった電池を火の中に投げ込まないでください。

各部の名称





フロントパネルディスプレイ



a 受信している放送局の周波数やボリュームレベルを表示します。

b マルチチャンネルサウンドがステレオにダウンミックスされた時、もしくはFMステレオが受信された時に点灯します。

c ラジオ局が同調して受信された時に点灯します。

d テープモニター機能がONの時に点灯します。

e プリセット受信モードが選択された時に点灯します。

f MEMORYボタンが押されたときに点滅します。

g プリセット番号やスリープ時間、ディレイタイムを表示します。

h スリープタイマーが設定されている時に点灯します。

i 各サラウンドモードを表示します。

各部の名称

A POWER（主電源）

本機をスタンバイの状態もしくは電源を切ります。電源がOFFになっている状態ではリモコン動作を受け付けません。

B STANDBY/ON（スタンバイ）

本機のPOWERスイッチが押された際にこのボタンを押して本機を立ち上げたり、スタンバイに戻したりします。

C リモコン受光部

リモコンを使用時は、この受光部に向けて操作してください。

D INPUT SELECTOR(入力セレクター)

入力ソースを選択します。

E 6CH DIRECT

6CH DIRECT INPUTSに接続されたソースを選択します。

F AUTO

デジタル信号のデコーディングモードを選択します。

G DSP MODE

サラウンドモードを選択します。

H STEREO

ステレオモードを選択します。音がフロントスピーカーとサブウーファーのみから出力されます。

I DIGITAL INPUTS

3系統あるデジタル入力端子のうち一つを選択します。

J TONE DIRECT

トーンコントロールのON/OFFをおこないます。

K TONE DIRECT表示灯

トーンコントロールがOFFの時に点灯します。

L 主音量調節つまみ

ノブを回して(あるいはリモコンのMASTER VOLUMEボタンを押して)主音量を調節します。

M VIDEO3入力端子

ポータブルCDやゲーム機等を接続することができます。

N BAND

FM/AMを選択します。

O FM MODE

FMチューナーモードでステレオまたはモノラルの選択をおこないます。

P TUNING MODE

マニュアルチューニングもしくはプリセットチューニングの選択をおこないます。

Q TUNING/PRESET

マニュアルチューニングモードでは自動選局に使用します。プリセットチューニングモードでは登録された局を選択します。

R MEMORY/ENTER

プリセットをメモリに登録します。

S CINEMA EQ

シネマEQのON/OFFを選択します。

T DYNAMIC RANGE

ドルビーデジタルで録音されたディスク再生時にダイナミックレンジの圧縮をして静かに視聴できるモードを選択します。

U SPEAKER MODE

使用するスピーカーの特性に合ったスピーカーコンフィギュレーションをおこないます。

V TONE MODE

BASSまたはTRBLのモードを選択します。

W ADJUST(CHANNEL LEVEL)

各スピーカーのレベル調節等をおこないます。

X CHANNEL SELECTOR

このボタンを繰り返し押してスピーカーを選び、ADJUST(CHANNEL LEVEL)ボタンでレベル調節をおこないます。

Y SPEAKER

スピーカーのON/OFFを切替えます。

ON:スピーカーから音がでる
OFF:スピーカーからは音がでない

ONの場合、スピーカー表示灯が点灯します。

Z PHONES

ヘッドホン使用時はヘッドホンプラグを接続し、主音量調節つまみで音量調節します。

リモートコントロールの説明

A DIMMER

ディスプレイの低照度モードの切り替えまたは消灯をおこないます。

B 数字ボタン

チューナーモードではプリセットチャンネルを選択します。

C T.TONE

テストトーンを出力します。

D D.TIME/ADJUST

ディレイタイムの調節をおこないます。

E SLEEP

スリープタイマーの設定をおこないます。

F PRESET SCAN

プリセットチャンネルのスキャンをおこないます。

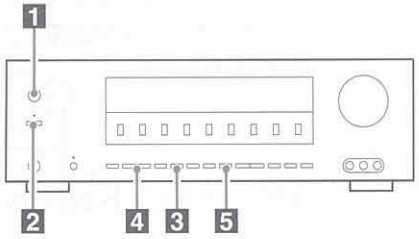
G MUTING

ミュートをおこないます。

スピーカーコンフィギュレーション(スピーカー設定)

本機を使用する前にスピーカーコンフィギュレーションを行うことをお薦めします。
5.1chのようなマルチチャンネルサラウンドをお楽しみいただくには５つのスピーカー(左フロント、センター、右フロント、左サラウンド、右サラウンド)とサブウーファーが必要です。

スピーカーサイズとサブウーファー設定



・5秒間何も操作がなければスピーカーセットアップモードは自動的にキャンセルされます。

・スピーカーボタンがOFFになっている時はスピーカーモードボタンは機能しません。この場合はスピーカーボタンを押してONにして下さい。

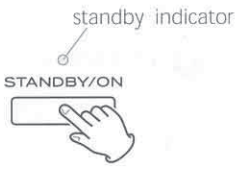
・6CHダイレクトが選択されている場合、SPEAKER MODEボタンは機能しません。この場合、6chダイレクトボタンを押してOFFにしてください。

1 POWERスイッチを押す

本機がスタンバイモードになり、スタンバイ表示灯が点灯します。

2 STANDBY/ONスイッチを押し、本体の電源をONにします。

スタンバイ表示灯が消えます。

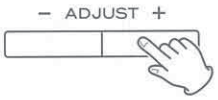


3 スピーカーモードボタンを2秒以上押し続けます。

スピーカーモードの1つ「FL-CL-SL」がディスプレイに現れ、「-」部が点滅します。

・ステレオモード、もしくはドルビーバーチャルモードの場合、サブウーファーの設定のみ可能です。

4 ADJUSTボタンを押してスピーカーサイズを設定して下さい。



ADJUSTボタンが押される度に設定は以下のように変わります。

FL-CS-RS(フロントラージ / センタースモール / リアスモール)
FL-CL-RS(フロントラージ / センターラージ / リアスモール)
FL-CL-RL(フロントラージ / センターラージ / リアラージ)
FL-CL-RN(フロントラージ / センターラージ / リアなし)
FL-CS-RL(フロントラージ / センタースモール / リアラージ)
FL-CN-RL(フロントラージ / センターなし / リアラージ)
FL-CS-RN(フロントラージ / センタースモール / リアなし)
FL-CN-RS(フロントラージ / センターなし / リアスモール)
FS-CS-RS(フロントスモール / センタースモール / リアスモール)
FS-CS-RN(フロントスモール / センタースモール / リアなし)
FS-CN-RS(フロントスモール / センターなし / リアスモール)
(F:フロント、C:センター、R:左右リア、L:ラージ、S:スモール、N:なし)

Large:

接続されているスピーカーが80Hz以下の低音が十分に再生可能な場合に選択します。

Small:

接続されているスピーカーが80Hz以下の低音が十分に再生できない場合に選択します。

None:

スピーカーを接続しない場合に選択して下さい。音はフロント(もしくはリア)のスピーカーから出力されます。

選択に応じて個々のスピーカーに必要な設定は変わります。

フロントスピーカーが「FS(Small)」の場合、サブウーファーの設定は自動的に「SUB W-Y(yes)」になり、フロントチャンネルの低音部分はサブウーファーから出力されます。この設定ではパワードサブウーファーが必要になります。

「FS-CL-RL」と「FS-CN-RN」は選択できません。

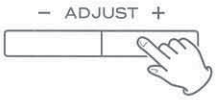
5 8秒以内にMOMORY/ENTERボタンを押してください。

設定が記録されます。

ボタンが押されないとスピーカーサイズ設定の変更はキャンセルされます。

スピーカーコンフィギュレーション(スピーカー設定)

6 **ADJUST**ボタンを押すとサブウーファー設定に変わります。



SUB W-Y(Subwoofer-Yes):

パワードサブウーファーが接続されている場合に選択してください。

SUB W-N(Subwoofer-No):

サブウーファーが接続されていない場合に選択してください。フロントスピーカーの設定が「FS(Small)」の場合、「No」を選択することはできません。

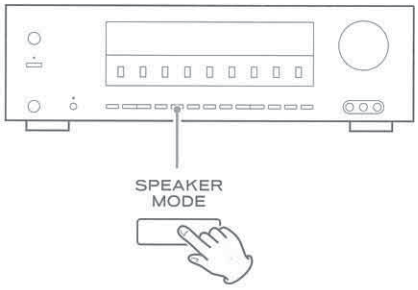
・ホームシアターを楽しむ為にパワードサブウーファーの使用をお薦めします。

7 **8**秒以内に**MEMORY/ENTER**ボタンを押してください。

設定が記録されます。ボタンが押されないとサブウーファー設定の変更はキャンセルされます。

スピーカーセッティングの確認

SPEAKER MODE ボタンを繰り返し押すと、現在のスピーカーセッティングが表示されます。

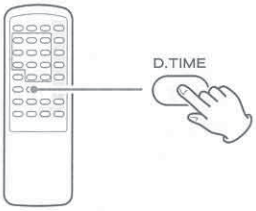


スピーカーコンフィグレーション(ディレイタイム)

各スピーカーがリスニングポジションから等しい位置にない場合、ディレイタイムを調節します。
ディレイタイムはDolby Digital、Dolby Pro Logic IIやDolby Pro Logicに設定されている場合のみ働きます。
5秒間何も操作がなければディレイタイムモードはキャンセルされます。

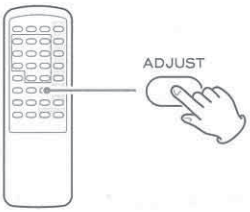
1 サラウンドモードが**Dolby Digital**、**Dolby Pro Logic II**または**Dolby Pro Logic**になっていることを確認して下さい(**20**ページを参照してください)。

2 リモコンの**D.TIME**ボタンを押して、「**CENTER**」や「**REAR**」を選択してください。



「CENTER」(センタースピーカーのディレイタイム)はDolby Digital 5.1フォーマットのDVDを再生している時に有効です。

3 リモコンの「**ADJUST**」ボタンを用いて設定を変更して下さい。



変更可能範囲

CENTER:0ms(OFF) から 5ms
REAR:0ms(OFF) から 15ms / 5ms ステップ

サラウンドモードがDolby Pro LogicもしくはDolby Pro Logic II MOVIEの場合、リアのディレイタイムに自動的に10ms(3m)が足されます。
1msのディレイタイムは30cmに相当します。
例えばセンター(もしくはリア)スピーカーが150cm程フロントスピーカーより近い場合、CENTERを5msにしてください。
Dolby Digitalモードでは**2**～**3**の手順を繰り返し、他の設定を変えてください。

4 すべての設定が終了したら、**5**秒間待った後、ディレイタイムモードから抜けてください。

・フロントスピーカーとサブウーファーのディレイタイムは設定できません。

・センターもしくはサラウンドスピーカーが他のスピーカーより遠い位置にある場合、この設定はうまく働きません(最大設定値：センター 1.5m / リア 4.5m)。

テストトーンを用いてのスピーカー間の音量調節

テストトーン機能は各スピーカー間の音量調節をするのに使用します。

調整後はスピーカーの位置が変わらない限り、再調節は必要ありません。

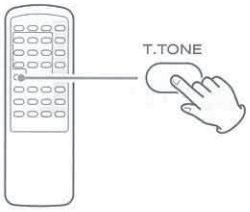
・DVD再生時も音量調節は可能です。詳しくはP15を参照してください。

・設定はリスニングポジションでリモコンを使用して行ってください。

・SPEAKERボタンがOFFの場合はT.TONEボタンは機能しません。この場合、SPEAKERボタンを押してONにしてください。

・6CHダイレクトもしくはSTEREOが選ばれている場合、T.TONEボタンは働きません。この場合、DSP MODEボタンを押して他のサラウンドモードを選択してください。

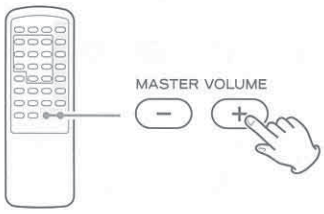
1 T.TONEボタンを押します。



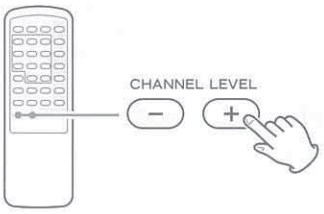
テストトーンが各スピーカーから下記の順番に2秒間隔で出力されます。

使用しないスピーカーがある場合(例えばセンタースピーカーがない場合)そのチャンネルは自動的にスキップされます。

2 マスターボリュームを通常聴く位置に調整します。



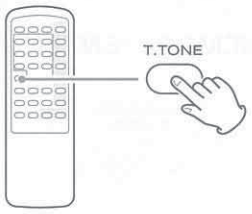
3 スピーカーからテストトーンが出ている時に音量を調節し、各スピーカーからの音量が同じになるようにしてください。



・テストトーンを出力するスピーカーレベルはCHANNEL LEVELボタンを押すことで変化します。

・レベルは-15dBから+15dBの範囲で1dBステップで調節できます。

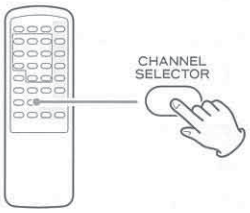
4 設定が終了したら**T.TONE**ボタンを押してテストトーンを止めてください。



スピーカーコンフィギュレーション(チャンネルセレクター)

DVD再生中にスピーカー間の音量を調節する場合

1 (DVD再生中に) **CHANNEL SELECTOR**ボタンを押します。



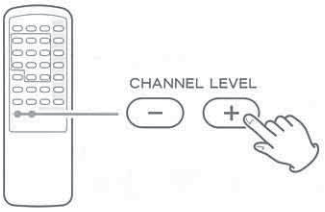
CHANNEL SELECTERボタンが押された場合、チャンネルは次のように移ります。

テストトーン設定ですでに調節がされている場合、スピーカー設定(FL、C、FR、RR、RL、SW)を変更する必要はありません。

LFE レベルを変えたい場合はCHANNEL SELECTOR ボタンをディスプレイに"DD L(DolbyDigital LFE)" もしくは "DTS L(DTS LFE)" が表示されるまで押してください(LFE:Low Frequency Effect)。

- "DD L" もしくは "DTS L" が表示されるのはDolby DigitalやDTSのLFE信号がDIGITAL音声入力端子から入力される時のみです。
- スピーカーが "None" や "No" にセットされている場合はディスプレイに表示されません。
- ステレオモード、ドルビーバーチャルモードの場合、あるいはSPEAKERボタンがOFFになっている場合はフロントスピーカーのみがディスプレイに表示されます。

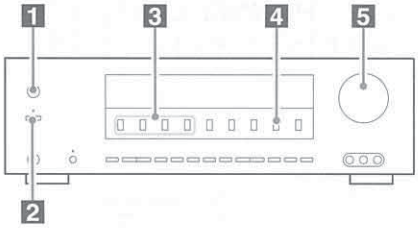
2 2秒以内に**CHANNEL LEVEL**ボタン(もしくは本体の**ADJUST**ボタン)を押します。



- スピーカーレベルは-15dBから+15dBの範囲で1dBステップで調節できます。
- LFE レベルは -10dBから0dBの範囲で1dBステップで調節できます。デフォルト設定は0dBです。必要であれば低くしてください。

1～**2**を繰り返して他の設定変更をします。

すべての設定終了後、2秒待ち、Channel Select modeからぬけてください。

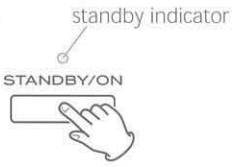


1 POWER スイッチを押します。

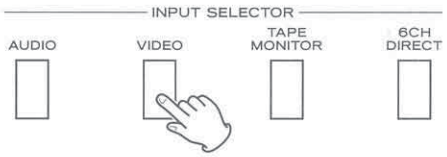
スタンバイモードになり、スタンバイ表示灯が点灯します。

2 STANDBY/ON スイッチを押し、本機の電源を入れます。

スタンバイ表示灯が消灯します。



3 INPUT SELECTOR ボタンのいずれかを押してソースを選びます。



フロントパネルのディスプレイ選択したソースが表示されます。

AUDIOボタンが押される毎にソースは以下のように変わります。

VIDEOボタンが押される毎にソースは以下のように変わります。

- スタンバイモード時に INPUT SELECTOR ボタンのひとつが押されると本機は自動的に選択されたソースで立ち上がります。
- ソースが 6CH DIRECT INPUT 端子に接続されている場合、6CH DIRECT ボタンを押してステップ 5 に進んでください。

テープモニター機能

TAPE MONITOR端子に接続されているソースを選択したい場合、TAPE MONITORボタンを押してテープモニター機能をONにしてください。ディスプレイに"TAPE M"表示灯が点灯します。

TAPE MONITORボタンをもう一度押すと、この機能はキャンセルされます。

- tape monitor functionがONの場合、TAPE MONITOR以外のソースは聞こえません。他のソースを聞く時はこの機能が OFF になっていることを確認してください。
- 6CH DIRECT ボタンが押されると、tape monitor function は自動的に OFF になります。
- 3-head カセットテープデッキが TAPE MONITOR (PLAY and REC)端子に接続されていて、録音中にtape monitor 機能が ON になっている場合、ソースの音ではなく録音された音が聞こえます。

4 ステップ 3 で **VIDEO(1,2** もしくは **3)**または **CD** を選択している場合、**DIGITAL INPUT** ボタンを繰り返し押し、**terminal** を選択してください。

o1:DIGITAL IN(OPTICAL)ターミナルにソースを接続している時に選択します。

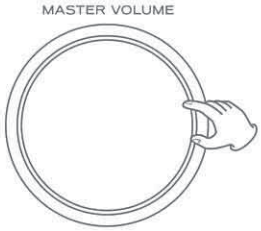
c1:DIGITAL IN(COAXIAL 1)ターミナルにソースを接続している時に選択します。

c2:DIGITAL IN(COAXIAL 2)ターミナルにソースを接続している時に選択します。

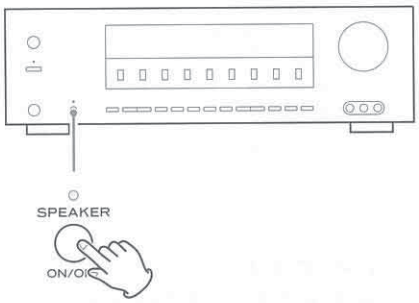
A : アナログの AUDIO IN 端子にソースを接続している時に選択します。

- デジタル入力ディスプレイは本機がデジタル信号を感知できない時に点滅します。この場合、デジタル機器を DIGITAL 音声入力端子に接続し、スイッチを ON にして下さい。そして DIGITAL INPUT ボタンを押してターミナルを選択します。
- ステップ 3 で VIDEO(1 や 2 または 3)や CD が選択されるのと同様に、選択した DIGITAL 音声入力端子から音が聞こえるはずです。

5 ソースを再生し、主音量調節つまみを少しずつ回して好みのレベルまで音量を上げていきます。



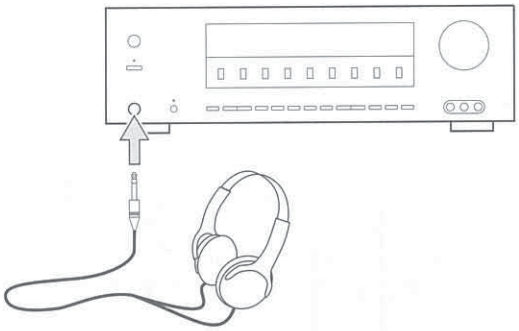
SPEAKER ON/OFF



SPEAKER ON/OFF ボタンを押してスピーカーの ON と OFF を切替えます。

ON が選択されている場合、ディスプレイに SPEAKER 表示灯が点灯します。

ヘッドホン

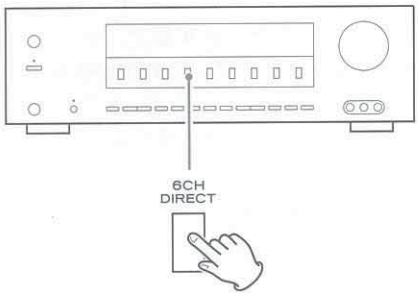


ヘッドホンで楽しむ場合はまず本機の音量を最小にします。次にヘッドホンのプラグをヘッドホンジャックに差込み、ボリュームを調節します。

スピーカーからの音をださないようにするには SPEAKER ボタンをおして OFF にしてください。

・SPEAKER ボタンが OFF の場合、マルチチャンネルは自動的に 2 チャンネルにダウンミックスされます。

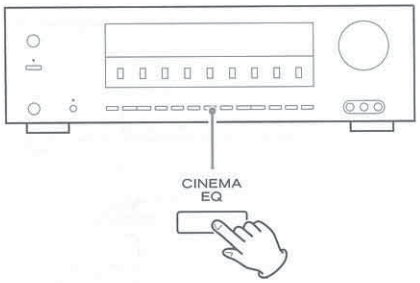
6 チャンネルダイレクト入力



ソースが 6CH DIRECT INPUT ジャックに接続されている場合、6CH DIRECT ボタンを押してください。"6-DIRECT" の文字がディスプレイに表示され、6 つの独立したアナログ信号がスピーカーから聞こえます。

6CH DIRECTボタンをもう一度押して(もしくはINPUT SELECTOR ボタンを押して他のソースを選ぶと)、6CH ダイレクト機能をキャンセルします。

シネマイコライザー

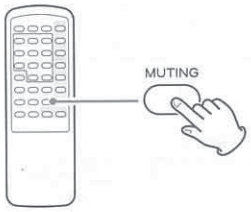


シネマイコライザーはキンキンした映画のサウンドトラックを抑制します。CINEMA EQボタンを一回押すと、現在の状態("C-EQ OFF"か"C-EQ ON")が表示されます。もう一度ボタンを押すと ON か OFF を選べます。

・この機能は96kHzのPCM(2chステレオ)信号には働きません。

・この機能は 6CH DIRECT が選択されている場合は働きません。

ミュート

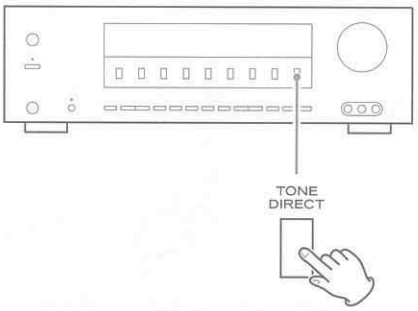


一時的にミュートをかけたい時はMUTINGボタンを押します。

MUTING ボタンをもう一度押すとミュートが解かれます。ミュート中に音量調節をおこなうとミューティングはキャンセルされます。

・ミュート中は "MUTE" の文字がディスプレイに点滅します。

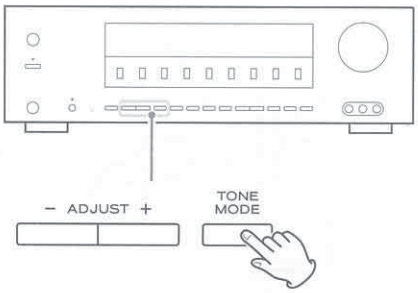
Tone Direct



TONE DIRECTボタンを押すとトーンコントロール機能のON/OFFが可能です。

トーンコントロールがOFFの時、ディスプレイのTONE DIRECT表示灯が点灯し、トーン効果なしの音を聞く事ができます。

トーンコントロール



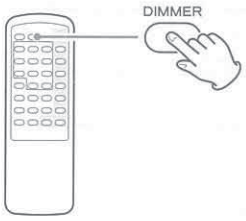
・DTSもしくはDolbyDigitalのデジタル信号の入力があった時や6CH DIRECTが選ばれている時はトーンコントロールが働かず、TONE DIRECT表示灯が点灯します。

1. TONE DIRECT表示灯が点灯している時、TONE DIRECTボタンを押し、トーンコントロール機能をONにしてください。
2. TONE MODEボタンを押し、"BASS"もしくは"TRBL"を選択します。

   低域レベルを調節するには"BASS"を、高域レベルを調節するには"TRBL(treble)"を選択します。
3. 2秒以内にADJUSTボタンを押し、設定を変えます。

   レベルは−10から+10の範囲で2dB毎に調節可能です。

照度調節



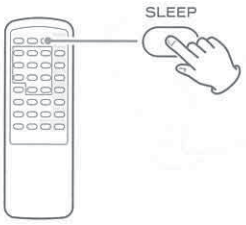
DIMMERボタンを押すとフロントパネルのディスプレイの減光、消灯をおこなうことができます。

・ディスプレイが消灯している時にでも、何らかのボタン操作があるとディスプレイは点灯します。

・STANDBY/ONもしくはPOWERスイッチが押された時にこの機能はキャンセルされます。

・スリープタイマー設定時はディスプレイは自動的に減光されます。

スリープタイマー



設定時間が経過すると電源が自動的にOFFになります。

ディスプレイに設定したい時間になるまでSLEEPボタンを繰り返し押します。

SLEEP10（20,30,60,90）

電源が10(20,30,60,90)分後にOFFになります。

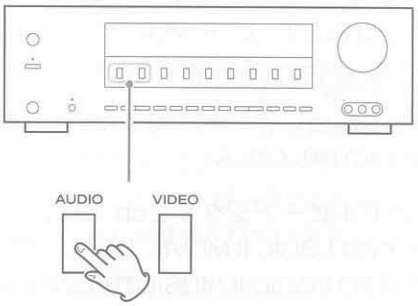
通常のディスプレイ

スリープタイマーはoffになっています。

スリープタイマーをセットすると、ディスプレイは減光し、電源がOFFになるまでの時間が表示されます。

ソースの録音

1 **INPUT SELECTOR** ボタンのひとつを押し、録音すべきソースを選択します。



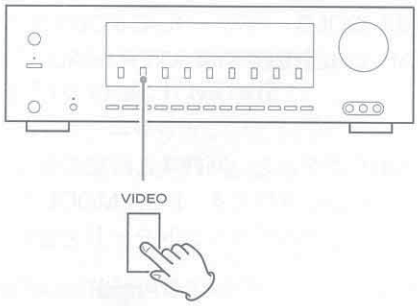
2 **TAPE MONITOR REC** 端子に接続された録音機器の録音を開始します。

・音量とトーンコントロールは録音信号に影響しません。

・6CH DIRECT INPUT端子からのアナログ信号は録音できません。

VIDEO2/3 から VIDEO1 へのダビング

1 **VIDEO2/3** を **VIDEO** ボタン（もしくはリモコンの **VIDEO2/3** ボタン）を押して選択します。



2 **VIDEO1** 録音端子に接続されているビデオデッキの録音を開始します。

3 **VIDEO2/3** 入力端子に接続されているビデオデッキの再生を開始します。

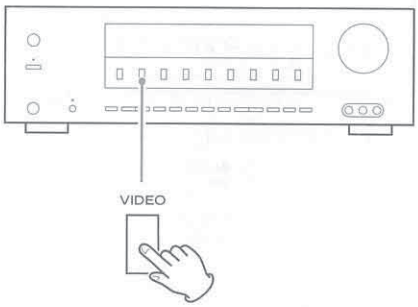
VIDEO2/3 からの音声、映像信号は VIDEO1 録音端子から出力されます。

コピープロテクトのかかった DVD ディスクはダビングできません。

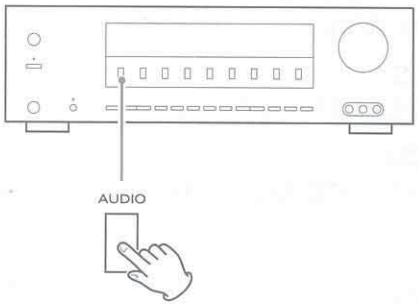
音声と映像信号をわけてダビング

VIDEO2/3の映像信号をダビングしている間にビデオデッキの音声とCD等の音声ソースの音声信号を替えることができます。

1 **VIDEO** ボタン（もしくはリモコンの **VIDEO2/3** ボタン）を使用して録音する映像ソースを選択します。



2 録音する音声ソース（ＣＤ、**TUNER**、**AUX**等）を **AUDIO** ボタン（もしくはリモコンの該当するボタン）で選択します。



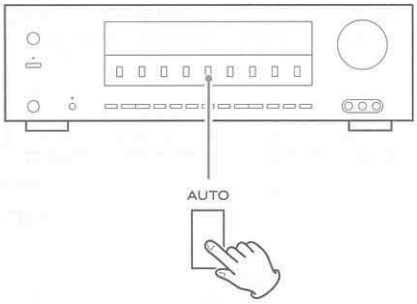
3 **VIDEO 1** 録音端子に接続されているビデオデッキで録音を開始します。

4 録音する音声、映像のソースを再生します。

ビデオからの映像が TV に映り、オーディオ機器からの音声がスピーカーから出力されます。

・6CH DIRECTが選択されている時、DSP MODEボタン及びAUTOボタンは働きません。

1 デジタル機器が**DIGITAL**音声入力端子に接続されている時、**AUTO**ボタンを押して該当するデコーディングモードを選択してください。



AUTOボタンを押すと、デコーディングモードは以下のように変化します。

IN-AUTO（デフォルト）：
通常はこの設定にします。適切なデコーディングが自動的に選択されます。

IN-DTS：
入力信号がDTSの場合のみ選択してください。

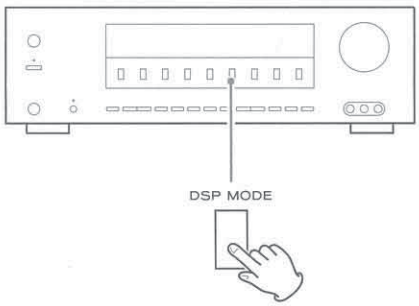
IN-PCM：
入力信号がPCMの場合のみ選択してください。

・AUTOボタンは機能がVIDEOまたはCDで、デジタル入力が選ばれている場合のみ働きます。

・IN-AUTOが選ばれている時、DTSフォーマットのDVDを再生中にノイズが聞こえる場合があります。この場合、IN-DTSを選択してください。

・選択したデコーディングモードが入力信号と異なる場合、デジタル入力ディスプレイが点滅し、スピーカーからは何も音が出ません。

2 **DSP MODE**ボタンを押して、希望のサラウンドモードを選択してください。



DSP MODEボタンが押されている時、サラウンドモードが変わります。

A ドルビーデジタル信号が入力され、IN-AUTOが選択されている時、サラウンドモードはドルビーデジタルに自動的にセットされます。DSP MODEボタンを押すと、以下のサラウンドモードを選択できます。

ソースがドルビーデジタル **5.1ch**の場合
DOLBY DIGITAL,DOLBY VIRTUAL

ソースがドルビーデジタル **2ch**の場合
DOLBY PRO LOGIC II MOVIE, DOLBY PRO LOGIC, DOLBY PRO LOGIC II MUSIC,DOLBY PRO LOGIC II MATRIX, DOLBY PRO LOGIC II CUSTOM, DOLBY VIRTUAL

B DTS信号が入力され、IN-AUTOもしくはIN-DTSが選択されている時、サラウンドモードは自動的にDTSになります。DSP MODEボタンは働きません。

C 入力ソースがPCM(2chステレオ)でIN-AUTOもしくはIN-PCMが選択されている場合、またはアナログステレオ信号が入力されている場合、以下のサラウンドモードを選択できます。

DOLBY PRO LOGIC II MOVIE, DOLBY PRO LOGIC, DOLBY PRO LOGIC II MUSIC,DOLBY PRO LOGIC II MATRIX, DOLBY PRO LOGIC II CUSTOM, DOLBY VIRTUAL, CHURCH, THEATER, HALL, STADIUM

・DSP MODEボタンを一回押すと設定されているサラウンドモードが表示されます。DSP MODEボタンを繰り返し押すことで他のサラウンドモードを選択できます。

・DSP MODEボタンを押すと、音声が少しの間途切れます。

・ドルビーデジタルが選択できるのは、ドルビーデジタルフォーマットで記録されたDVDディスクを再生している場合のみです。

・STEREOボタンを押すとサラウンドモードをキャンセルできます。

DTS（DTS Digital Surround）

DTS Digital Surroundは5.1chまでドルビーデジタルよりも低い圧縮率で再生します。その為オリジナルのサウンドトラックに近い音が再現されます。

ドルビーデジタル（Dolby Digital）

ドルビーデジタルは独立した全帯域の5チャンネル(左フロント、右フロント、センター、左サラウンド、右サラウンド)及びLFE(ロー・フリークエンシー・エフェクト)と呼ばれる0.1chで構成されています。

LFEは効果音専用で、臨場感を高める指向性のない低域信号をサブウーファーに送ります。

ドルビープロロジックII(Dolby Pro logicII)

ドルビープロロジックIIはドルビーサラウンドエンコードされたソースに加え、あらゆるステレオソースを5.1chのサラウンドサウンド(左フロント、右フロント、センター、左サラウンド、右サラウンド)で再生します。従来のドルビープロロジックのサラウンドチャンネルはモノラルで帯域制限もありましたが、プロロジックIIはステレオでフルバンド化(20Hz～20kHz)されています。

※ドルビープロロジックIIはモノラルソースには働きません。

ドルビープロロジック II MOVIE（Dolby Pro logic II MOVIE）：

映画やドルビーサラウンドエンコードされたソースに向いています。TVゲームに対しても効果的です。

ドルビープロロジック II MUSIC（Dolby Pro logic II MUSIC）：

音楽CDのようなステレオソースの再生において豊かなふさわしい音場を作り出します。

ドルビープロロジック II MATRIX（Dolby Pro logic II MATRIX）：

他のモードで十分なサラウンド感が得られない場合に選択してください。

ドルビープロロジック II CUSTOM（Dolby Pro logic II CUSTOM）：

基本的にはMusicモードとは変わりませんが、カスタマイズできる多くのパラメーターがあります。

ドルビープロロジック（Dolby Pro logic）：

ドルビープロロジックはドルビーサラウンドエンコードされたVHSビデオソフトのようなステレオサウンドトラックをサラウンドサウンド(左フロント、右フロント、センター、サラウンド)の4つのチャンネルにデコードするマトリックスデコーダーです。

ドルビーバーチャル（Dolby Virtual）

ドルビーデジタルやドルビーサラウンド、2チャンネル(PCM, アナログ)ソースを2本のフロントスピーカーのみでサラウンド再生を行います。

THEATER

映画館のような立体的なサラウンド効果を提供します。

HALL

クラシックやオペラといったジャンルに最適です。

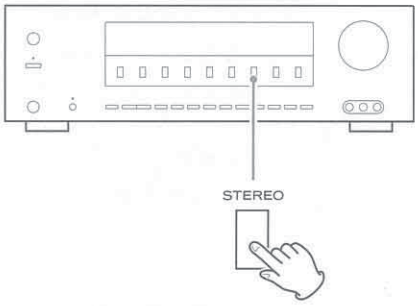
STADIUM

野球やサッカーの観戦をしているような広がりのある音場をつくります。

CHURCH

教会にいるような反響のある空間を再現します。

ステレオモード



STEREO ボタンを押すとステレオモードになります。"STEREO"という文字が表示され、フロントスピーカーから(および接続されている場合はサブウーファーからも)出力されます。

ステレオモードから抜けるには、DSP MODE ボタンを押して他のサラウンドモードを選択してください。

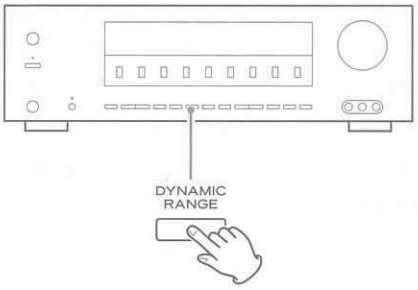
・ドルビーデジタルやDTSのデジタル信号が入力されている時にステレオモードを選択しようとすると、マルチチャンネル音声は２チャンネルにダウンミックスされます。

・ドルビーデジタルやDTSのデジタル信号が入力されている時に SPEAKER ボタンが OFF になると、マルチチャンネル音声は２チャンネルに自動的にダウンミックスされます。SPEAKER ボタンが ON になると、元のサラウンドモードに戻ります。

Dynamic Range Compression

ドルビーデジタルのダイナミックレンジを圧縮します。この設定を調節することで、台詞などの小さな音を保持したまま大音量を抑えることができます。リスニング状況に合わせて以下のいずれかのモードを選択してください。

DVD 再生中にお好みの設定がディスプレイに表示されるまで繰り返し DYNAMIC RANGE ボタンを押してください。



DYNR 0、0（off）：
ダイナミックレンジを圧縮しません。

DYNR 0、5：
ダイナミックレンジを多少圧縮します。

DYNR 1、0：
ダイナミックレンジを最大に圧縮します。

デフォルト設定は"DYNR 0、0"です。

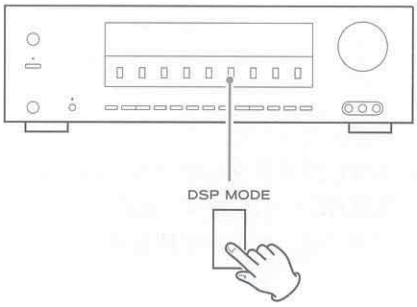
この機能はDIGITAL音声入力端子を通して接続されたDVDプレイヤーでドルビーデジタルフォーマットのディスクを再生した場合にのみ有効です。他のディスクではできません。

この機能が有効にならないディスクもあります。

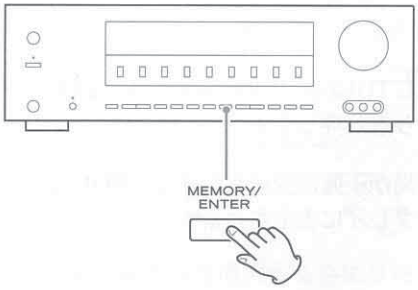
ドルビープロロジック II パラメータ

ドルビープロロジック II MUSICとドルビープロロジック II CUSTOMのパラメータを調節可能です。

1 ドルビープロロジック**II MUSIC**或いはドルビープロロジック**II CUSTOM**を**DSP MODE**ボタンを押して選択します。



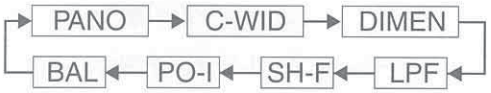
2 3秒以内に**MEMORY/ENTER**ボタンを押し、変更したいパラメータを選択します。



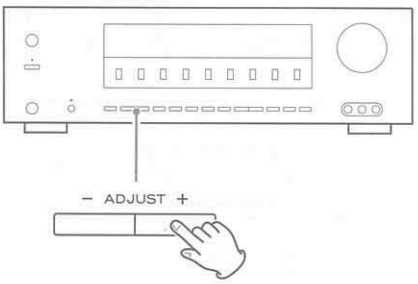
MEMORY/ENTERボタンが押される毎にパラメータが以下のように変化います。

ドルビープロロジック**II MUSIC**

ドルビープロロジック**II CUSTOM**



3 5秒以内に**ADJUST**ボタンを押すと値を設定されます。



PANO（panorama）
フロントステレオの音場イメージをサラウンドスピーカーを用いて拡大します。サラウンド効果が感じられない場合にONを選択して下さい。デフォルトはOFFです。

C-WID（center width control）
センターイメージを調節し、センタースピーカーからのみ、ファントムイメージとして左/右フロントスピーカーからのみ、或いは3つのスピーカー全てから出力されるようにします。調節可能範囲は0から7で、デフォルトは0です。

DIMEN（dimension control）
音場イメージをフロント側あるいはリア側に調節します。調節可能範囲は−4から2で、デフォルトは0です。

LPF（7kHz Low Pass Filter on the surround channels）
7kHz以上の帯域をカットするフィルターをON/OFFで選択します(デフォルトはOFF)。

SH-F（Shelf Filter on the surround channels）
ONかOFFを選択します(デフォルトはOFF)。

PO-I（Right Surround Channel Polarity Inversion）
ONかOFFを選択します(デフォルトはON)。

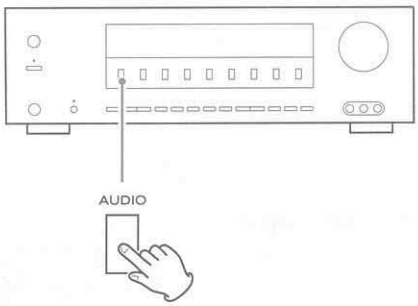
BAL（Automatic Balancing）
ONかOFFを選択します(デフォルトはOFF)。

- ドルビープロロジックII Musicモードでは7kHz Low Pass Filter、Shelf Filter、Right Surround Channel Polarity Inversion、Automatic Balancingを選択できません。
- 7kHz Low Pass FilterとShelf Filterを同時にONに設定できません。同時に設定しようとしても最初に設定されていたものが自動的にOFFになります。

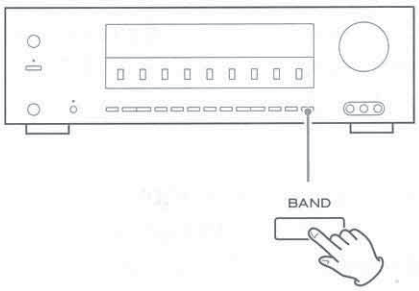
2と**3**を繰り返して他のパラメータを調節してください。すべての設定が終わったら5秒間待って設定から抜けてください。

アンテナが接続されていることを確認してください。

1 AUDIOボタン（もしくはリモコンのTUNERボタン）を押してTUNERを選択します。

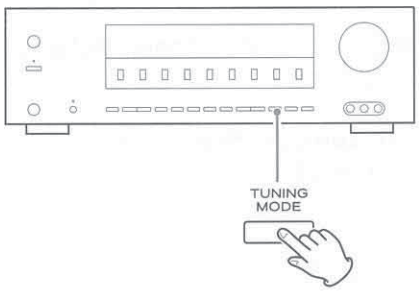


2 BANDボタンを押してAM/FMを選択してください。



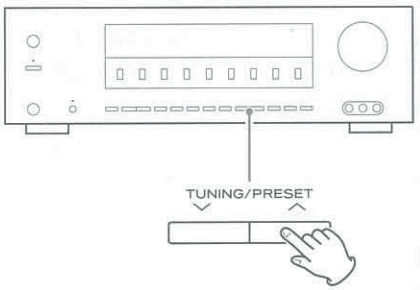
・TUNER以外のソースが選択されている時にBANDボタンが押されるとソースは自動的にTUNERになります。

3 PRESET表示時にTUNING MODEボタンを押してマニュアルチューニングモードを選択します。



PRESET表示がディスプレイから消えます。このボタンはチューニングモードを変える為に使用します。

4 聞きたい局を選択します（auto selection）



TUNING/PRESETボタンを0.5秒以上押します。選曲されると自動的に停止します。選曲を停止したい場合はTUNING/PRESETボタンを押します。

自動でチューニングできない局を選択したい場合（manual selection）

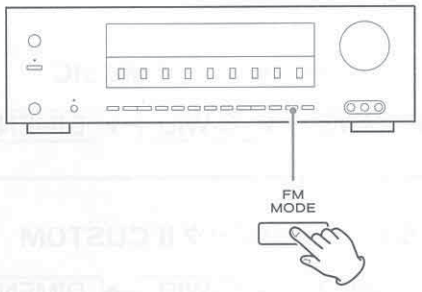
TUNING/PRESETボタンを押すと、周波数が次のステップで変わります。

FM:50kHz ステップ
AM:9kHz ステップ

繰り返しTUNING/PRESETボタンを聞きたい局になるまで繰り返し押します。

ラジオ局が正確に受信されると、TUNEDという文字がディスプレイに表示されます。

FM MODE ボタン



ステレオモードとモノラルモードを切替える時に押します。

Stereo：
FMステレオ放送はステレオで受信され、STの文字がディスプレイに表示されます。

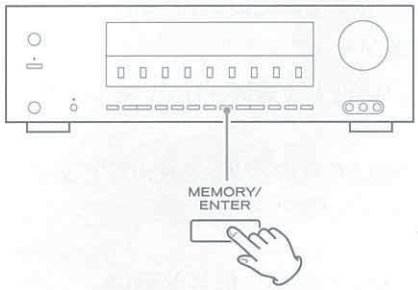
Mono：
受信状態の良くないFMステレオの変わりに選択します。強制的にモノラル受信をしてノイズを低減させます。

FM/AM 合わせて 30 局までストアできます。

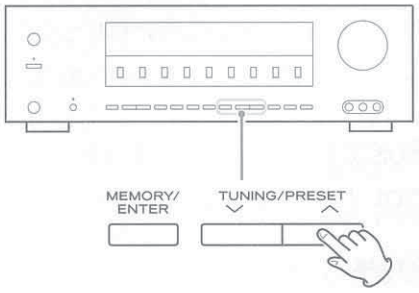
Manual Memory Presetting

1 聞きたい局をチューニングします（24ページの1～4を参照）。

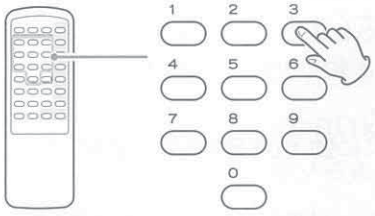
2 MEMORY ボタンを押します。



3 MEM表示が点滅している時に、TUNING/PRESET ボタンを使用してプリセットチャンネルに登録し、MEMORY ボタンを押してください。



プリセットチャンネルを選択する為にリモコンの数字ボタンを使用することもできます。



例：

2 番を選択する：2

3 番を選択する：3

16 番を選択する：1 → 6

30 番を選択する：0

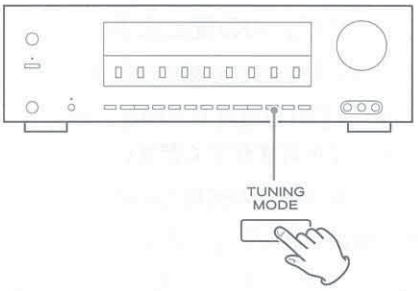
例えば16番を選択するには1を押し、2秒以内に6を押します。30番を選択するには0を押し、(局を登録する際に3と0を押しても3番が30番の代わりに選択されます)数字キーを使用すると、MOMORYボタンを押さなくても局が自動的に登録されます。

さらに局を登録するには1～3の手順を繰り返してください。

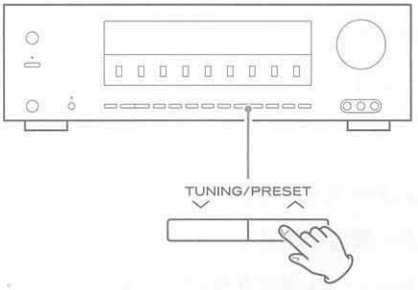
登録した局の選択方法

1 PRESET 表示が点灯していない場合、TUNING MODE ボタンを押してプリセットチューニングモードを選択します。

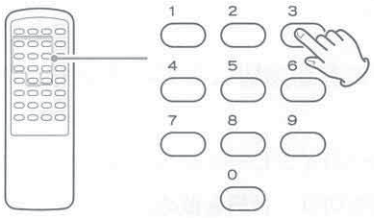
・リモコンを使用する場合、この手順を飛ばして構いません。



2 TUNING/PRESET ボタンを希望の局が見つかるまで繰り返し押します。

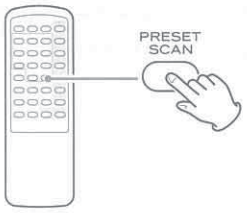


・登録した局を選択する場合、数字キーを使用することも可能です。



登録局のスキャニング

リモコンの PRESET SCAN ボタンを押します。メモリーに登録されているプリセット局は5秒間隔でスキャンされます。聞きたい局が見つかったら、PRESET SCAN ボタンを再び押し、スキャンを停止します。



故障の場合は

故障の場合はサービス窓口にお問い合せになる前にもう一度チェックしてみてください。

電源が入らない

➡ 電源ケーブルがコンセントにささっていることを確認してください。

音が全くでない / 低音のみ聞こえる

➡ 主音量調節つまみを回して適切な音量にしてください。
➡ SPEAKER 表示灯が点灯していない場合、SPEAKER ボタンを押して点灯させてください。
➡ スピーカーや外部機器の接続を確認してください。
➡ 外部機器の操作を確認してください。
➡ DVDプレイヤーを接続している場合、音声出力を確認してください。
➡ INPUT SELECTORボタンとDIGITAL INPUTSボタンを使用して、適切な入力ソースを選択してください。
➡ 適切なサラウンドモードを選択してください。
➡ ディスプレイに【MUTE】の文字が点滅している場合、MUTING ボタンを押してミュートを解除してください。

リア / センタースピーカーから音がでない

➡ スピーカー設定を確認してください。
➡ チャンネルレベル設定を確認してください。
➡ 適切なサラウンドモードを選択してください。
➡ 接続している DVD プレイヤーの音声出力設定を確認してください。マルチチャンネルのソースを再生してみてください。

音楽再生中に音が途切れる / 電源が入っているのに音がでない

➡ スピーカーのインピーダンスが所定のものより低い。
➡ 一度電源を切り、音量を低めにしてみてください。

低音のレスポンスが低い

➡ スピーカーの極性(＋－)が反転している。全てのスピーカーの極性が正しいか確認してください。

ハム音やノイズが聞こえる

➡ スピーカーがしっかりと接続されていることを確認してください。
➡ ラインコードやスピーカーケーブルが AC 電源から離れていることを確認してください。

デジタル入力ディスプレイが点滅しています

➡ 本機がデジタル信号を認識できていません。
➡ AUTO ボタンを押して、適切なデコーディングモードを選択できるようにしてください。

画面が映りません

➡ 外部機器の接続を確認してください。
➡ TV の電源が入っていることを確認してください。
➡ Video 入力が正しく選択されていることを確認してください。
➡ INPUT SELECTORボタンを使用して適切なビデオソースを選択してください。

ラジオ局が受からない、信号が弱い

➡ アンテナがしっかりと接続されていることを確認してください。
➡ 本機の近くに TV がある場合は消してください。
➡ アンテナを受信状態の良い場所に移してください。
➡ 地域によっては外部アンテナが必要な場合があります。

ステレオ放送がモノラルで受信される

➡ FM MODE ボタンを押してください。

リモコンがきかない

➡ 一度POWERボタンを押してスタンバイにしてください。
➡ 電池を新しいものに交換してください。
➡ リモコンの範囲内(5m)で使用し、フロントパネルに向けて操作してください。
➡ リモコンと本機の間に何も障害物がないことを確認してください。
➡ 本機の近くに強い光を発するものがあれば消してください。

通常の状態に戻らない場合、一度 **POWER** ボタンを押してスタンバイにしてからコンセントを抜き、数分待ってから再び電源を入れてみてください。

メモリー保存

14日以上、電源が入らない状態が続いた場合、メモリーに入っている情報(ラジオ局のプリセットやスピーカー設定等)が消去されます。

お手入れ

本機表面が汚れてきた場合、柔らかい布で拭いてください。シンナーやベンジン、アルコールは使用しないでください。

仕様

アンプ部

定格出力	100W × 5(6Ω)
周波数特性	LINE：20Hz ～ 50kHz:+0/-3dB
SN比	LINE：92dB(IHF-A)
全高調波歪率	0.09%(at 100W,1kHz,6Ω)
入力感度	LINE：200mV/47kΩ
出力レベル	200mV/2.2kΩ(TAPE REC)
トーンコントロール	BASS：±10dB at 100Hz,TREBLE：±10dB at 10kHz

デジタルオーディオ部

サンプリング周波数	32kHz/44.1kHz/48kHz/96kHz
デジタル入力レベル	COAXIAL(75Ω)：0.5Vp-p OPTICAL(660nm)：-15dBm to -21dBm

ビデオ部

出力レベル	1Vp-p(75Ω)
端子	RCA ジャック

AMチューナー

受信周波数帯域	522kHz ～ 1,629kHz(9kHz steps)
実用感度	500 μ V/m
全高調波歪率	1.5% at 100dB/m
SN比	40dB at 100dB/m

FMチューナー

受信周波数帯域	76.0MHz ～ 90.0MHz(50kHz steps)
全高調波歪率	モノラル：0.5% ステレオ：0.8% ,1kHz
ステレオ分離度	42dB(1kHz)
SN比	モノラル：70dB　ステレオ：65dB
周波数特性	30Hz ～ 15kHz,±3dB

総合

電源電圧	AC 100V、50/60Hz
消費電力	電源入時　200W スタンバイ時　3W 以下
外形寸法	440(W)× 141(H)× 375(D) mm
質量	9.9kg